

# アップ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会  
2010年 3月号  
第62号



称名寺

## 目次

■平成遷都 1300 年記念事業参加について	.....	安田 千鶴代	1 ページ
■茶室と女性委員会 ～夢を託して・平成遷都 1300 年祭～	.....	上田 壽子	2 ページ
■勉強会に参加して～より良き環境を作る:低酸素社会の実現～	.....	山田 久美子	3 ページ
■最近の仕事から (4)「こだわり」” 声を聞く “	.....	岡田 伸子	5 ページ
■今後の事業予定	.....		7 ページ

## 平城遷都 1300 年記念事業参加に付いて

女性委員会委員長 安田 千鶴代

平成20年～21年の女性委員長を担当させて頂き振り返ってみると委員会の為に何が出来るかと考え模索のみであったという間に終わった二年間でした。

この間、東京と長野での全建女協議会と京都、滋賀主催の近建女見学会等、全国の女性建築士との交流、近畿2府4県の女性建築士との情報交換(平成23年全建女協議会は京都に決定)と県外の空気を感じるに付け奈良県の女性委員会活動の低迷を危惧する気持ちは私だけでは無かったと思います。

この様な中で平成21年5月に平城遷都1300年記念事業から県土木部建築課を通し平城宮跡会場、交流ホール出展参加の呼掛けが建築士会に有り女性委員会が名乗りを上げました。

ご存知のように磐余から飛鳥そして藤原京を経て平城京遷都とヤマト時代の最後の都が平城京で、以後 長岡京・平安京時代より後、ヤマシロの時代へと移っていくのですが、奈良盆地の南にあった藤原京から平城京に遷都して平成22年で1300年の年月が流れたこととなります。



天平衣装体験イメージ(第一次大極殿正殿前庭)

この記念すべき年に全国に向けて奈良県が取り組む事業として平城遷都1300年事業が21年の前年度から22年の1年間を通して行われます。

出展内容は、平城京にゆかりのある内容とし

- テーマ「茶の文化発祥の地、奈良」

## ○ 展示内容

空海(弘法大師)が804年遣唐使として中国に渡り806年茶種を持ち帰り大和高原に植えられた茶栽培が宇治や各地に広がったという説があります。又奈良市菖蒲池町(近鉄奈良駅すぐ)の称名寺には茶祖:村田珠光作(千利休より100年前)の茶室と言われる「獨廬庵」(非公開:要予約)があります。

女性委員会は茶の文化発祥の地:奈良に有る神社仏閣及び公共施設所有の茶室を実測調査し『大和茶室探訪』を出版、引き続いて個人所有の茶室調査を行い『大和茶室探訪II』を出版しました。これらの調査した茶室をもとに茶の文化の伝来、奈良茶室の紹介、原寸模型の茶室再現による建築としての茶室解説等を行い県外から記念行事に来られる方々に茶の文化発祥の地としての奈良県をアピールしたいと思います。

○参加日時 7月1日(木)～7月3日(土)  
9:00～16:30

## ○同日参加団体として、

奈良県建築士会 女性委員会(橿原支部・宇陀支部・青年委員会参加)

(社)奈良県宅地建物取引業協会

(社)日本建築家協会近畿支部奈良会

以上の三団体で出展決定。

平成21年12月6日、記念事業協会会議室に於いて三団体の顔合わせ、交流ホール利用要項説明を受け出展の概要がみえてきました。平成22年1月19日士会会館会議室に於いて三団体第1回会議開催。

私達、女性委員会は出展に向けて事業部会を立上げ担当チームを編成、(①茶の伝来 ②大和茶室紹介 ③茶室模型原寸大)製作の3部構成とし)各チームのコンセプト、工程、必要予算算出等以上を纏め出展実現へと懸命に活動しております。

今、女性委員会の中でこの事業を皆でやり遂げるんだという連帯感が生まれ、任期終了間際に委員の自覚と奈良県の建築士会の誇りを奈良県内はもとより県外の来訪者にも示す為頑張っています。



平城遷都事業会議後の勉強会の様子

既に会員の皆様には、平城遷都 1300 年事業参加要請のハガキが届いていると思いますが、これからでも参加しようと思う委員は大歓迎です。又、活動に参加は無理という会員でも当日会場でのスタッフとして参加なら出来るという会員も歓迎します。当日 1 日だけの参加、半日だけの参加も OK です。共に全国規模の事業に参加して完成の喜びを分かち合いたいと思います。今回、歴代委員長も参加して頂き委員会の指揮も大いに盛り上がっております。

最後になりましたが二年間支えて頂きました皆様に感謝いたします。事業半ばで任期が終了いたしますが、本事業が終わる 7 月 3 日までは、スタッフとして皆様と共に頑張りたいと思いますので宜しくお願いいたします。

## 茶室と女性委員会

～夢を託して・平城遷都 1300 年祭～

上田 壽子

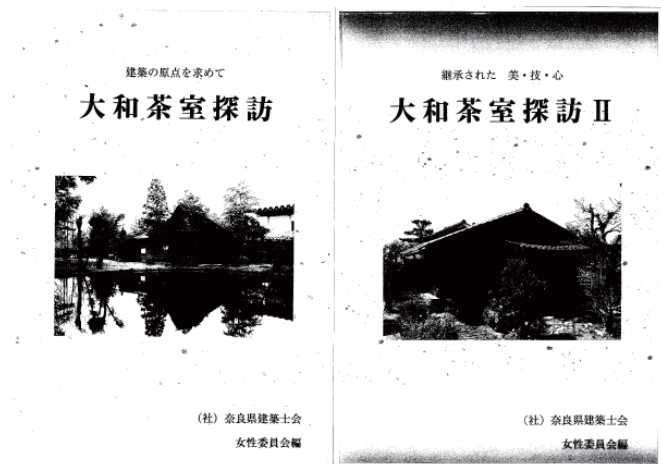
「13 世紀はじめ榮西禅師が中国宋から茶の実を持ち帰り、各地に栽培方法を教えたのが茶の始まり」とする説がある中で、私たち女性委員会は遣唐使であった空海（弘法大師）が茶種を中国から持ち帰り、大和高原や山城一帯にひろめていったという説にロマンを感じ、平成 7 年ごろより奈良県内にある茶室の調査をし、「大和茶室探訪」という 1 冊の本にまとめました。この間平成 10 年には建築士会全国大会を奈良で開催、全国から多数のお客様をお迎えしました。女性委員会では西大寺で大茶盛を催し、ひととき茶の世界を体感していただきました。あれからもう 10 年以上が過ぎてしまいました。2 冊目となる「大和茶室探訪Ⅱ」も上梓し、現在も時折紹介いただく茶室の調査を進めております。

遣唐使船が再現され、平城遷都 1300 年祭に展示されると言うことを聞き及びました。空海が難波津から博多を經由し入唐したのが 804 年（延暦 23 年）。弘法大師は全国津々浦々にその足跡を残していますが、奈良の室生寺や仏隆寺には『弘法大師の茶種持ち帰り説』が伝承されています。

最初禅寺では修業中の眠気を払う目的で、寺に茶を自家栽培されていました。茶を薬用とし、慈善救済を目的とし民衆に分け与えたのが叡尊上人（1201 年建仁元年生まれ）で、西大寺「大茶盛」の行事として残っています。

室町時代に畳を敷いた書院造りが完成し、書院茶の湯が武家社会において成立しました。能阿弥の紹介により、足利義政の茶の師匠となったのが、村田珠光です。

村田珠光は 1423 年（応永 30 年）奈良に生まれました。少年時代をすごしたのが近鉄奈良駅より北に 400m ほど行ったところにある称名寺です。称名寺には珠光の茶室「獨慮庵」があります。何度も大火に見舞われ、現存するのは 1802 年（享和 2 年）築造と言われております。珠光の茶の湯は武野紹鷗に継承され、紹鷗から千利休へと受け継いでいかれたものです。珠光の一番弟子と言われるのが、奈良生まれの古市澄胤で茶の湯伝授書「心の文」で「和漢のさかいをまぎらかす事」が大事とされています。豪奢なものではなく素朴枯淡なものに美を見出したとされています。わび茶の祖「村田珠光」と言われる由縁です。



女性委員会ではこの珠光の茶室「獨慮庵」を、平城遷都1300年祭に再現することになりました。

戦国時代に入ると権力の象徴として茶の湯が持てはやされ、茶道具はその政争に使われるようになりました。信長は数多くの茶器などを集めました。珠光愛用の青磁茶碗は本能寺の変で焼失したと伝えられています。江戸時代に入って大名の茶が盛んになり、大和小泉城主片桐石州は5代将軍綱吉に茶道師範として仕え、後の大名茶に大きな影響を与えました。石州ゆかりの大和郡山慈光院や当麻寺中之坊は国の重要文化財に指定されています。

将軍綱吉の側近、柳沢吉保を祖とする郡山城主柳沢堯山は諸芸に通じた数寄大名として知られ、また赤膚山の開窯を許したのが赤膚焼きの名前の起こりとされています。このほか生駒市高山地区には一子相伝の茶筌の生産が全国的なシェアを誇っています。茶の栽培は静岡、鹿児島、三重、京都、宮崎などと並び、全国的な生産高です。

事ほどさように、奈良は『茶』と深くかかわっています。

今またなぜ『茶室』なのかと問われたら、日本人の心、もてなしの心を思い出したからに他なりません。1300年の時流に思いをはせるとき、私たちは「もてなしの心」を思い出したのです。茶の文化発祥の地奈良と言うことは『もてなしの心』を再び奈良に、と求めるものです。平城遷都1300年を迎えるにあたり、先人の知恵に感謝し、畏敬を持ってまた次の時代に伝えていきたいと願うものであります。私たち奈良県建築士会女性建築士は茶室を通じてその様式美や伝統美、その工法、構築の仕方などを伝えるとともに、『心』を伝えていきたいと願うものであります。



平成22年度勉強会に参加して

～より良き環境を作る:低炭素化社会の実現～

山田久美子

平成22年1月30日(土曜日)、奈良県社会福祉総合センターにおきまして、「地球温暖化防止に向けた社会動向」と「建築設備計画基準改定」に伴う勉強会を関西電力株式会社の方の説明で実施され、11名が参加いたしました。

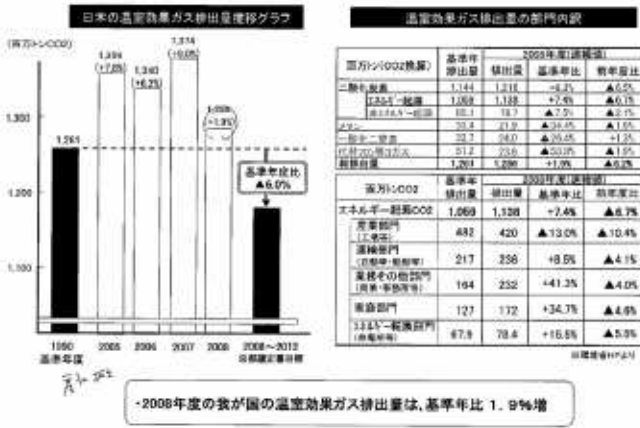


まず、環境に関する背景として京都議定書より、日本は2008年から2012年までの間に、温室効果ガスの排出量を1990年比6%減らす必要がありますが、2007年度には1990年比で約8.7%の増加となっていて、企業及び各個人それぞれが意識した取り組みの必要性を感じました。

\* 各資料は勉強会に使用された関西電力提供のものであります。



日本の温室効果ガス排出量の推移



③ 地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）



電気の使用に伴うCO2排出量 = 電気事業者別CO2排出係数 × 電気使用量

① CO2の排出係数について

電気のCO2の排出係数を小さくすることが排出量を減らすことになり、CO2の発生しない発電方法を積極的に取り入れることが必要となります。

原子力発電・水力発電は発電時CO2を出さず、また話題になっている太陽光発電・風力発電もCO2をだしません。現在は、原子力発電4.1%と水力発電9%と電力量の50%がCO2をださない発電となっていて、1kWhあたりのCO2排出係数は0.355kg-CO2/kWhがこの関西での排出係数となります。

② CO2の部門別の排出量について

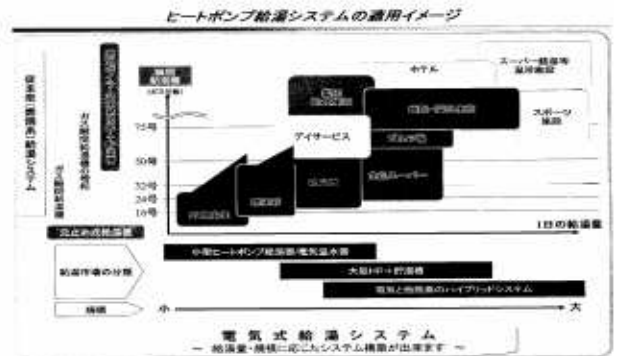
工場や自動車などの排出量は、企業努力をどこでも行っていますので減少傾向になっていますが、商業・サービス・事務所部門、家庭部門で増加傾向になっているためこの部分を減らすために法でしぼりを設けて排出量を下げようという取り組みがなされています。

あの自動車や家電製品（エアコン・冷蔵庫）のエコポイントもそのためだったのでですね。



④ 効率のよい製品を使う

エコポイントで購入する電化製品も効率のよいものを使うと言うことで電気使用量を減らす目的があります。そこで、エネルギー消費量の多いところ、業務部門では17.1%も占める給湯のところでヒートポンプの説明を受けました。



ヒートポンプの冷媒はCO2です。空気中にある熱エネルギーを汲み上げて移動させる？？しくみになっていて電力は気体の冷媒を圧縮し、高圧化・高温化させるために使われるのですがそのCOP（エネルギー消費効率）が大きいということがCO2削減に効果があるそうです。

しかし、初期費用がかかるということで、現場の用途・大きさなどにより、ボイラと組み合わせて使うことを進

められました。

ヒートポンプは夜間の電力を使用し貯湯槽に湯を貯めて昼間使います。そのために安い電力の活用 及び昼間の電気量を抑える効果もあり、電力会社としても、供給電気を抑えることもでき、環境配慮にとってプラスの効果が出るそうです。

久々に勉強会に参加し、1時間30分と言う短い間でしたが自分の専門分野ではないところでの環境取り組みを聞いて、少し身の回りの環境への配慮が不足していたと反省しきりです。

環境のためには、省エネ商品の活用の大切を学びましたが、いつのタイミングで使用を決断するか費用とまたもっとよいものが出てくるのではないかと期待の中で難しさも実感しました。

勉強会は、新しい情報を得られるよい機会でした。

これから、もう少しまじめに参加し自己研磨に努めようかなと思っています。



勉強会の後、恒例の新年会。

今年は、レストラン桑名でボリューム満点のフランス料理を頂きました。お食事を頂きながら今年の女性委員会の活動や、平城遷都1300年記念の出展についてのお話であったという間に時間が過ぎました。楽しい時間をありがとうございました。

## ■最近の仕事から (4)

「こだわり」 — “声を聞く”

岡田伸子

昨年秋 県の電子入札が始まり、暮れになって初めて県営住宅の外壁改修設計業務を落札しました。最近は民間の仕事が激減、公共の業務は調査、設備、構造等々外注費の占める割合が高く、いつも貧乏暇なしです。外壁改修は外注費がいらないので、少し息がつけるかと入札に参加した訳です。しかし、今また新しい厄介事に遭遇しています。設計書作成はこれまでエクセルで対応していたのですが、今回からは“リビック”に限るといいます。ソフトはリースとなり、リース料の単位は1ヶ月。何をすることも高い壁ばかりです。しかし、やるか?やめるか?選択肢は二つに一つです。

今回の投稿テーマは昨年夏に完了したマンションの改修設計業務としました。思いもかけない人から声がかかり、半ば義理で参加したつもりの入札でいただいた業務です。4回目の「こだわり」は、“声を聞く”とします。

この業務は平成18年4月に始まり、平成21年9月まで、3年5ヶ月の長丁場でした。現場は大阪府豊中市、豊中駅から徒歩で6分の立地、第一種低層住居専用地域および風致地区内の広大な敷地に鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階で、延べ面積4370㎡の建物です。この面積で住戸は49戸、すべて4LDK以上です。マンション内のメインストリーから各戸に至るアプローチをつくり、それらは空中歩廊であったり石庭沿いであったり、建築当時は近隣では一番高額のマンションであったようです。

改修内容は屋上防水改修、外壁改修、バリアフリー改修、ゴミ置き場改修等です。写真1は外壁タイル貼のクラック・浮きを調査しているところです。ハンマーで一枚づつたたきます。



マンションの管理運営は、区分所有者全員からなる管理組合が行います。具体的には理事からなる理事会が管理規約に基づき、総会で議決された事項及び業務を執行します。したがって、当改修工事業務の中では3回の総会に出席することとなりました。調査報告および改修計画案の提示では、さまざま意見が飛び交い議論白熱、この仕事を受けた時から住人の要望をしっかりと聞くことに徹することを覚悟していたものの予想以上でした。戸建ての住宅設計でも大変なわけで、49戸分の声を聞こうと決意しました。具体的には代表者で組織された修繕委員会と打ち合わせをすることとなります。

省エネを目的に屋上を断熱防水で改修。これには最上階の住戸と下階では効能の差があるのが論点となります。バリアフリー改修については条例の施行以前の建物であり、その意味では既存の不適合建築物になります。これは一部住人のプライドが許さないようです。現在は身体に障害を持っている人はいません。しかし、今後高齢化がすすむことは考慮にいれなければなりません。エレベーターは2基設置されています。将来障害者用エレベーターに交換できるスペースが確保されています。したがって今回改修しなくても先送りできると思えました。写真2は正面玄関ですが段差があります。石組、地下埋設の設備があり、スロープの新設は困難なため階段昇降機の設置を提案しました。しかし、福祉施設の様になるといわれ却下です。写真3ですが、実際最も利用度の高いガレージにむけてのスロープ整備を具体化することになりました。また、ゴミ出しに頻繁に使用する屋外階段が直階段

で急勾配であるため、ゴミ置き場と一体的に改修するという方法が決まりました。一見無用の屋外階段が存在していました。利用されることはなく邪魔な存在でした。しかし、避難のため屋外通路として法的には必要なのです。住人の方々は非常に賢明で、法を遵守することには抵抗がなく助かりました。しかし、議論の最中には修繕委員会・理事会・一般住人の間で意見が分かれ、収拾のつかない場面も度々ありました。とにかく委員会に出席する日はやたら緊張、胃の痛くなる思いの連続でした。一年をかけて、貴重な意見交換の結果、無駄な改修をしないで、必要なことはしっかりする。といったところで案はまとまりました。スロープの先には、セキュリティー完備の開口幅の広い自動ドア形式の門扉を設置しました。勿論特注ですが、大変好評で完成後もお年寄り、荷物を持っての出入り、ベビーカーのお母さんに喜んでいただきました。



当改修工事では、スーパーゼネコン出身の“技術士”が工事監理者、実はこの人が知人で設計入札に参加することになったわけですが、CM方式にこだわり、おまけに修繕委員長も土木出身でとうとう挑戦することになりました。CM(Construction Management)方式とは、発注者の代行者であるコンストラクション・マネージャーが、技術的な中立性を保ちつつ、発注者の側に立って、専門工事業者と直接工事契約を行う方式です。元請となる総合工事業者がないため、営業経費等のコストを省くことができます。屋上防水改修工事から始まり、5社により入札、設計段階に比べ1割以上安く落札、大変良いスタートとなりました。改修工事には予測できなかった追加工事が発生することがあります。また、住人の新しい要望も受け入れなければならず、工程表通りに進まないこともしばしばでした。

今回、監理業務のチーフ技術士が工事始まってすぐに、突然入院、完成間近に退院という不慮の出来事があり、重点監理のみのはずの当事務所は大変でした。今更ながら、総合工事業者の高い施工管理能力を痛感しました。しかし今後建設生産・管理システムの一つとして定着していくことは確かで、十分勉強していく必要があると考えます。



## 今後の行事予定

- 3月4日(木)  
女性委員会遷都1300年記念事業第2回全体会議
- 3月5日(金)  
遷都1300年記念事業(称名寺:獨盧庵)見学
- 3月6日(土)・7日(日)  
平成21年度全国青年委員会会議
- 3月18日(木)  
理事会……遷都1300年事業説明
- 4月12日(月)～16日(金)  
二級・木造建築士試験申込み受付
- 5月10日(月)～14日(金)  
一級建築士試験申込み受付
- 5月20日(木)  
平成22年度奈良建築士会通常総会・懇親会
- 5月27日(木)  
定期講習

### 編集後記

女性委員会に入るや否や フープ編集を担当させていただき2年が過ぎ この号をもって次の方に引き継ぐこととなりました。

私ごとながら、独立して間もない時期でもあり、様々の情報収集や他の方の活動を参考にさせていただけたらという私的な思いもありお引き受けしたものの、満足な編集ができなかったのではと反省することしきりです。女性建築士の輪 — フープ。女性委員会の広報紙という位置づけであれば、もっと多くの方のお声を載せるほうがよかったのか あるいは編集がパターン化したものになったのでないか……etc.

フープ編集にあたりましては 多くの皆様にご協力いただきましたこと御礼申し上げます。一年を通して連載くださいました岡田先生の“こだわり”の記事 次回はどんな“こだわり”なんだろうと楽しみにしながら編集をさせていただきました。また今回 上田副会長から女性委員会と茶室への深い見識をしめしていただきました。ほんとうにありがとうございました。

(安井ひとみ)